

6 議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 次期総合計画の構成の考え方について（資料1） ・長岡版総合戦略（長岡リジュベネーション（策定済）と次期総合計画の関係性について ・将来像について ・地域別のまちづくりの方向性について ・土地利用構想について ・政策体系（政策の柱等）について 4. その他 5. 閉会
7 会議結果の概要	第6回策定委員会までの経緯を踏まえ、次期総合計画の構成の考え方と政策体系（政策の柱等）について意見交換が行われた。
8 会議資料	第7回次第 資料1 次期総合計画の構成の考え方について 資料1別紙 政策体系（政策の柱等）について
9 審議の内容	
委員長	資料1「次期総合計画の構成の考え方について」は、5つの項目がありますが、まずは1番の「長岡版総合戦略長岡リジュベネーション（策定済）と次期総合計画の関係性について」、2番の「将来像について」を、一括して事務局より、説明をお願いします。
政策企画課長	(資料1の1、2に基づき説明)
委員長	1番、2番のご質問がありましたらお願いします。 無いようですので、3番「地域別のまちづくりの方向性について」、事務局より説明をお願いします。
政策企画課長	(資料1の3に基づき説明)
委員長	現在の総合計画は地域展望という、旧市町村単位での記載のページがありますが、合併から10年が経過している今回の策定にあたり、地域に関する記載を、どのような考え方をもって計画に盛り込んだらよいか、各委員からご意見を頂戴したいと思います。

委員	<p>地域別の計画の方向性についてですが、地域の意見を今後どのような手法を取り、どこから集約してくるのでしょうか。それによっては、おそらくまとめ方がいろいろ変わると思います。私たちこの 30 名弱の委員の中で、地域のことを全てわかっているわけではないので、地域をどう取りまとめるかについて、事務局の考え方をお伺いしたいと思います。</p>
政策企画課長	<p>次期総合計画やリジュベネーションにおいて、より今後の行政計画が、実効性を高めていき、実際それを展開する中で、柔軟に見直しながら進めていくことが、まず1つ、今後の市政運営の中では大切だと考えています。</p> <p>その中で、従来だと、地域の声をどのように取りまとめているかは、普段、各部局の業務の中で、いろいろな団体や地域にお住まいの方から、会議の形態などいろいろな形で、声をお聞きし、事業を実施しています。</p> <p>今後は、1つの案ですが、総合計画の中で地域の方向を、ある程度大きい目で見えてしっかりと示していく中で、例えば、地域委員会や、各地域に根ざしてきているようなNPO法人やさまざまな団体があります。それらは各地域、地域委員会の活動でも見られている横の連携をとりながら活動したり、活動自体が成長しています。ご質問の地域の声は、まず総合計画においてはその方向をしっかりと示し、今後も計画の方向に沿った中で、いろいろなところで吸い上げ、今後もより今まで以上に、事業にしっかりと反映していきます。そういう考え方で、今時点で言うと、地域委員会、NPO法人、さまざまなネットワークを活用しながら声を拾っていきたいと思っています。</p>
委員	<p>わかりました。手法については、想定内というか、大体そんなところだろうなと思いましたが、これからやるのでは、はっきり言ってもう遅いくらいという気がしています。実際、行政内部でどこまで動いているのでしょうか。例えば、福祉は福祉でいろいろな計画がありますが、既存計画の中で吸い上げるのか、新たにもう1回、地域委員会から声を聞く機会をつくるのでしょうか。いずれにしても、計画の段階としては少し遅いという気がしますので、ここはしっかりと頑張っていただく必要があるかと思っています。</p>
委員	<p>私としては、方向性案の②がいいと思っています。その理由は、現在、どうしても旧長岡と合併地域という言い方をしています。10年経っても一体化していません。だから、個別である③の方式は確かに一番わかりやすいし、簡単かもしれませんが、それよりも政策ごとに、極端に言いますと、合併地域と旧長岡がどうやって連携できるのか、あるいは合併地域同士、例えば寺</p>

委員	<p>泊と川口をどういうところでどう結びつけるのかなど、そうやって一体感を図っていく方向でやったほうがいいと思います。</p> <p>ただ、そういう意味でいうと、①などは非常にいいのですが、やってみるとものすごく難しいと思います。だから、地域のことも若干残しながら、②のような形で今後 10 年間はいき、地域が一体化するというような形での整理の仕方がいかがかと思います。</p> <p>先ほど言われたように、法人格を持つ、持たないは別にしても N P O がかなりの勢いで伸びています。特に合併地域では、その人たちが活動主体になってきているところもあるので、その意見がいかに組み込まれて、この中に盛り込まれているかは、とても大きなことだと思っています。そこをがっちり、もう一度くみ上げてほしいと思います。</p>
委員	<p>やはりある程度、地域別の将来展望は継続してつくってほしいと考えています。</p> <p>長岡市の一体感も重要ですし、そういった大きな枠組みは否定するつもりもないし、議論してほしいとは思いますが、合併したところは、やはりそのくくりでいろいろな取り組みをやったほうがうまくいくケースが、だいぶあるのではないかと思います。</p> <p>特に、だんだん人口が減っているところは、小学校等が統廃合されたり、いろいろなあつれきを持ちながら、まちがようやく一つになって、例えば山古志や川口、小国というアイデンティティの中でいろいろな活動をやったり、自分たちの地域の特徴というのを見いだしたりしています。それを十把一絡げに山地がどうだ、川沿いがどうだ、海地がどうだというようにしてしまうというのはもったいないです。地域の宝の磨き上げ事業等も、地域振興戦略部でやっていますが、それもやはり地域の各大枠とか、もう少し大きなくくりの中で、一生懸命考えたり、その中の連携で N P O が成立するような基盤をつくったりという状況ですから、それをもう一回エンパワーメントするというか、支援するような総合計画の位置づけというのは必要だろうと思っています。ただし、そのそれぞれの持っている特徴を組み合わせると、相乗効果で新たな価値が生まれるということは、やはり逃してはならない視点ではあります。</p> <p>そういったことをそういう観点自体に出してほしいです。やはり先ほど他の委員の話にもありましたが、地域からの声を吸い上げるのが、地域委員会であったり、旧町村単位で成立している N P O だったり、行政の出先に支所もあります。そういったことを考えると総合計画で考えることと、施策の連</p>

委員	<p>動性という考えが、もう 10 年は少なくとも合併市町のくくりの中で、もう少し頑張れることをしっかりやるというようなスタンスは持っておいてほしいと思います。過渡期というか、もう次の 10 年くらいではそういった市全体でというのがあるかもしれないけれども、それぞれの地域の特徴をもう一回きちんと磨いて、その特徴をお互いに理解するという 10 年であってもいいと思っています。</p> <p>私は、方向性案の③がよいと思っていました。その理由は、それぞれの合併地域と言いますが、地域の特徴というのは、大事にしなければいけないところも随分あると思うので、そういう部分は文化として、これから先も決してごちゃごちゃにはしてはいけない部分なのかと思っています。そのため、方向性としては③かと思っていました。</p>
委員	<p>10 年たっても、私の中でも寺泊は、長岡市なのですが、海があるところなので、何か特別な感じがします。やはりそういういい所と、山のいい所だったり、市民にこんなところがすてきだよと訴えることというのが全くできないので、私も方向性案の③にそれぞれの支所の単位での記載方法が必要なのではないかと思っています。</p>
委員	<p>私はどちらかという方向性案の②で考えたいと思います。それと同時に、11 地域は、非常にいろいろな面で、まちづくりについて、あるいは考え方が随分違うところもあると思っています。</p> <p>その中で、この総合計画の細部を、スポットをその地域に当てたような形で、各地域の特徴を活かし、それを浮かび立たせるような記述の仕方であればいいと思います。この地域はこうだ、ああだではなく、この地域にこの建物が欲しい、こういうようなものがあつたらいいというのではなくて、ソフト面で、市民活動も相当熟度が上がっていますので、その上にあればいいと思います。</p> <p>そのようなことで、あまり地域別にこれをこうして、こういうようにつくりますというのではなく、全体の方向を示しながら、この地域の特徴をより伸ばす部分を、どこかの中で記述していくなど、例えば観光や文化、福祉、その他教育など、差があつてはならないわけですが、特にその浮かび出ているところを記述するなど、全体の中で見ていくという形で持っていっていいのではないかと思います。</p>
委員	<p>今まで出た意見とほぼ同じなのですが、やはり予算権を持っているところ</p>

委員	<p>がどうしても強くなるので、どちらかという地域が受け身にならざるを得ないということになると思います。トップダウンとまでは言わないですが、上から下のほうに流れているような感じにどうしてもなっていく。その中で、ボトムアップの力をどれだけ働けるようにしていくかどうかが大事だと思います。</p> <p>地域にはやはり、非常に深刻な課題があって、それをひしひしと感じている部分がありますが、そうは思っている、なかなか動けない。動くにはお金がいる。そういったときに、どれだけ素早く応えていけるかを、年度当初に予算をつけてこれをやっていくというのではなく、そういったことができるかどうかというのも、期待したいところです。</p> <p>今まで発言いただいている方々と同じで、主語を長岡市に置き換えずに、やはり方向性のひとつとして、グランドビジョンとして示した中に、地域の特性をそこに当てはめていくというような②が、より自治体としても、市町村としてもいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>地域、それが旧市町村単位なのか、もしかしたら、栃尾の中にも例えば2つのエリアがあったりするのかな、よくわからないですが、とにかくエリアを設定する必要があると思います。</p> <p>90の小中学校のPTAの会員の方々と接していて、同じ中学校区を中心として小中学校で独自のイベントやスポーツ大会をやっていたりなど、独特の匂いというか、個々の流れや雰囲気や盛り上がりがあります。そうするとやはり、ひとつのエリアにまとめてなんとなく境界がないままにするのは難しいと思います。それが市区町村単位なのかはよくわかりません。それこそNPOであったり、いろいろな動きの中での新たな区割りもあるのかもしれませんが、とにかく区割りをつくるというのが重要だと思います。</p>
委員	<p>私も、方向性案の②と③のちょうど真ん中あたりという感じがします。</p> <p>旧市町村の特性がやはりあり、その特性をいかに発揮させていくか。その中でも強みと弱みもあると思いますが、それをどういうふうに政策の面で融合させられるかというあたりが、非常に考えるところです。例えば、中心市街地に住んでいれば、いろいろなサービスを受けようと思えば、すぐ歩いてサービスを受けられる。ただ、周辺地は交通の便も含めて、同じサービスを受けたいと思っても、なかなか受けられないというようなことがあるので、まず市町村の特性、強い部分、弱い部分、便利な部分、不便な部分、そういうものをあぶり出し、何かそれを政策の面でうまく融合できたらいいと考え</p>

委員	<p>ています。</p> <p>方向性案の中でいえば、結論から先に申し上げますと③だと思います。</p> <p>今ほど委員が言われたとおり、市街地に住んでいると、長岡目線というか、それ以外の旧市町村であった方たちの思いは、まだまだわかってないというのは実際あります。たまたま用があって、栃尾に行った時に、栃尾の中でも旧市街地とそれから本当に山間部のところとありますが、この辺りの生活との違いに愕然とするというのを実際に肌で感じました。</p> <p>そういうことを考えると、それぞれの旧市町村のところでたくさんいい部分あると思うのですが、そういった部分は先ほどNPOという話もありましたが、そういったところがつながって、それを増幅させていけばいいと思います。地域での本当に生活の中で困っているけれども、まだ声に上げられてない、あるいは声として全部集約できていない部分を考えると、この先の10年で、まだ③の旧市町村単位でやり、その先また10年といったときに、この先10年の総合計画の中で動いていくときに、さらにその先を見て、いろいろな意味で動いていく必要があると感じています。</p> <p>この先の10年で、まだ③の旧市町村単位でやっていって、またその先の10年の総合計画の中で動いていくときに、さらにその先を見て、いろいろな意味で動いていく必要があると感じています。</p>
委員	<p>私は方向性案の②と③で迷っていて、どちらかという②がいいのではないかと思います。</p> <p>理由としては、先日ありましたシンポジウムで「人口からのまちづくり」という研究の報告の中で、やはり1万人以下の地域と10万人以上の地域と、それぞれ人口で見えていったときにやり方が違うという報告を受けました。そういった中で、28万人弱の人口である長岡を見たときに、川口や山古志、また小国などは特に人口減少が進んでいて、これからの少子高齢化も長岡市中心市街と比べると、全然対策が違っている。そういうふうに鑑みると、川口、小国、山古志など、そういう単体で見るのではなく、そういった傾向を見ながら地域ごとに対策をとること。また、特色ある地域というのは長岡の魅力でもありますので、それを一つ一つ発信していくのではなく、長岡のブランド構築として、それが全て長岡なのだとすることをきちんと見せるためにも、川口の山であったり、栃尾の山であったり、また同じ豪雪地帯であるので、そういったところからも見ながらまとめて、長岡はこんないい山地があって豪雪地帯だけでも豊かな暮らしがあるとか、そういった発信の仕方もあるのではないかと思います。</p>

委員	<p>ただ、③を選ばれている委員の方々のように、住んでいる地域でこういったものはやっていきたいという気持ちもあるので、②と③で迷った中で、②よりだと思っています。</p> <p>合併して1つになりましたが、その前に、やはり各地域での文化は、住んでいる人たちが継続していこうという意識も強いです。合併した中で新しいものということも大事ですが、まずはそういった特性を、連携した中でうまく拾い上げていくというやり方のほうがいいということで、②か③にまだまだしていったほうがいいのかと思います。特に連携については、これからもう少し積極的に進めていったほうがいいのかと思います。</p>
委員	<p>私も方向性案②で、理由としては今まで述べられた方と一緒にあります。</p> <p>1つ質問なのですが、方向性をこの総合計画の中に新しく盛り込んだ中で、支所の取り扱いをどういう形にするのでしょうか。ある種、盛り込むのか、もしくは逆のパターンでやるのか、支所の取り扱いについてどういう形で考えられているのか、お聞かせいただきたいと思います。</p>
政策企画課長	<p>非常に難しいテーマで、市民全体の支所、あるいは本庁ですが、まちづくりというような事業も大切ですが、証明発行であったり相談であったり、行政サービスの提供というのは、当然、市役所が抱えている非常に重要なサービスです。その中で、今ご質問の、旧市町村単位のいわゆる支所地域におきましては、支所という機能をもって、合併時に総合方式をとった上で進めてきたのが、長岡市のやり方です。</p> <p>今後については、行政サービスという一言でくくっても、各行政分野にはさまざまなサービスがありますから、市役所内部で各部局がきちんと議論すべきところが、当然1つあります。あとは、地域にお住まいの方々が、普段、支所を中心に利用している中で、最近変わってきているのが、例えば深才地区の深沢の住民の方は、意外と、証明発行で越路支所に取りに行かれるケース、あるいは長岡市は広範囲になりましたので、通勤、退社に合わせた中で、寄れる場所でサービスを受けるという方も、合併以降、傾向としては出ています。</p> <p>最終的には、本日のこの場では、ご質問に明解にお答えするわけではありませんが、一方で、少し固い話になりますが、職員人件費であったり、いろいろな行政自体の運営の効率化というテーマも、当然、抱えています。今後、そこをしっかりと見ながら、一番大切にしなければいけないのは住民サービスを低下させないことです。そこをしっかりと考える中で進めるべき課題であ</p>

委員	<p>り、支所をどうするかというのは、一方では、市民の皆様からの税金で、いわゆる市政経営をしているので、そこでの効率化も避けて通れない、相反する課題です。今日お答えできるのは、そこを今後もしっかりやっていきたいというところです。当然、今後の状況をまたきちんと捉える中で、支所についてはしっかりと議論を進めていきたいと考えています。</p> <p>皆さんの意見を聞いていて、いろいろ考えていますが、方向性案の③がいいと思います。例えば、寺泊という、先ほども言われましたが、海、観光、魚というイメージだけだと思うのですが、大方の面積は農地で、お米も果物も豊富に採れます。そのため、②の「地域の主要な取り組みを盛り込む」では、寺泊は多分、観光になると思うので、農業などがこぼれてしまうのではないかという心配があります。</p> <p>あとは、旧長岡市の方からそういう目線で見られれば、市街地よりも不便はあります。役員会もこういう所へ1時間くらいかけて来なければいけないし、医者も夜はいなくなりますので、そういう交通の不便等ありますが、その地域に住んでいる幸せ度など、その地域のことは、やはりその地域の人しかわからない部分もあると思います。全部を掌握するということはできないと思いますので、まだ旧市町村単位でやっていって、その地域がいろいろ発信していけばいいと思います。</p> <p>長岡市の中心部が先になって発信していかななくても、その地域ごとが元気を出して発信していけばいいと思います。</p>
委員	<p>この総合計画は、長岡市の計画の一番上に立つ計画ですので、10年先を考えて、理念は高く持つべきだと思っています。その理念を高く持った中で、この施策の柱ですが、私は②で、政策を主にしておいて、そこに地域の特性を出していく。先ほど、他の委員がおっしゃいましたが、本当に合併した各地区のいろいろな団体の方がエンパワーメントされて、力を持って、いろいろな活動を、いろいろなイメージを持って、自分の地域を発信していますし、力もついてきていますので、その力をもっと吸い上げて、取り込んで、それぞれの地域の特性を生かしながら計画に落とし込んでいく。そこにまた、行政と市民が一緒になって動くと、前向きな大きな長岡市になっていくのではないかと私は思っています。</p>
委員	<p>私は、それぞれの地域にお住まいの方の、地域の声が一番大事ではないかと思っています。それぞれの地域でどんな声が出るかわかりませんが、そこに住んでいる方が、その地域の、自分たちのどういうビジョンを持って、どう</p>

<p>委員</p>	<p>なってほしいかというイメージがあると思うので、地域の意見を尊重していただきたいと思います。ただ、それぞれの地域の特性だとか、そういったことを生かしていく中で、①と②だと、どうしても地域の名前も含めて、地域の良さがだんだん薄れていったり、あるいは消えてしまったりしないかという懸念があるので、私は方向性案の③です。</p> <p>今日は答えが残念ながら出てきませんが、条件付きで、こういったことを解決できればいいのではないかという観点から話をさせていただきます。</p> <p>まず、方向性案の①で「地勢」というくくり方を提案していますが、例えば、新たに自然条件のような形で地域というのをくくれるかどうかです。やはり人間の営みといったものも大事にしないと、水源地帯だから一緒にくくってしまうなどは、人間のにおいがしないようなくくり方になります。それから、新しいものをつくる時は、なかなか定着するまでに時間がかかります。それを認めてもらうには、相当理屈がいます。勝手にこういうくくり方をしましょうと言って、納得してもらえるような答えができるかどうか。このあたりが、事務局にどこまで覚悟があるかということだと、私は思っています。</p> <p>それから、現行計画はちょうど合併が終わった後に策定された計画です。合併の時に、各市町村別にどういった新しい市をつくろうかということで、各地域から代表者に出てもらい、1つの会議、1つの組織で、いろいろ、ああだこうだ、どうしようということをやって、要は満遍なくくくるような形で、各地域別の計画をつくっていました。例えば、各地域委員会でそれぞれつくってしまうと、バランスがどうとれるかということがあり、これは「自分のところはこうだ」という比率ではなく、やはり全体のくくりを意識してやらないと、なかなかつくってはいけません。</p> <p>実は、私は宮内町生まれで、昭和30年に合併しました。一体感が出たのは、私の記憶から言うと20年後くらいで、30年たったら、ようやく長岡と宮内の境界はどこだったかわからなくなったようです。でも、私はいまだに、もう合併から50年たちましたが、「やはり私は宮内だ」と。これは多分、一生消えません。</p> <p>もう1つは、やはり地域のくくりというのは大事だというときに、私は地勢というのを大変難しいと言ったのですが、今、コミュニティが非常に重要視されています。各地域に行っても、市町村単位で、ごく小さい区域で活動されている場合も往々にしてあります。そうすると、あまり細分化していくのもよろしくないと思いますが、やはり一定の合理性を持つものは、日常の住人の生活の地域のくりに合っている。これが合っていないとコミュニテ</p>
-----------	---

<p>市長政策室長</p>	<p>イというのはつくっていても始まらないわけですから、このあたりを事務局はどのように乗り越えていって、地域というものを体現していくかです。そのため、何を書くのかというあたりで、②はどういう答えを持っているのか。</p> <p>それから③は、先ほど言ったように、実は現行計画をつくった時は合併の委員会で何年もかけてつくられた計画が基になっています。そのあたりをどうやってつくっていくのか。①については、みんなが納得できるような人間くささが感じられる地域というのはどのようにつくれるのか。こういうふうには①、②、③、どれがいいですかと言われても、本当に困ってしまうというのが今日の答えです。</p> <p>確かに、聞き方もよくなかったという気がします。ただ、おおむね、この聞き方でいくと、方向性案の②、③のどちらか、あるいはそのくくりの何かというところで伺いたいので、また考えて、次回にはどういう出し方をするか方向性をお見せしたいと思っています。</p> <p>ただ、それでも、コテコテの地域別として出すよりは、例えば、先ほどお話にあったとおり、NPOや地域コミュニティというのが、もう合併の地域の枠を超えて活動してきています。あるいは、観光を例にすると、長岡は花火ばかりではなく、良寛や錦鯉といったものは、もう長岡全体の宝として今後は磨き上げていくべきだということを考えると、決して地域ばかりにこだわるのではなく、一つのカテゴリー、特性や政策にこだわるという分け方も間違いではないのではないかと、今、感じています。</p> <p>やはり、一番頭の中におきたいのは、先ほど出てきたとおり、まずは市の一番上位の計画ですので、理念はやはり高く、一番大きく持ちたいと考えています。</p>
<p>副委員長</p>	<p>前回の総合計画では、信濃川に面している平場の所と、東側の中山間地、栃尾・山古志、それから、実は越路と小国も大半、それに入っていて、それから海側の寺泊と和島を1つにして、大きく3つの地域に分けて、実際は、東側は2つに分かれているため、4つに分かれていたと思います。そういうくくりで、地勢というか、塊として考えようとしていたのです。だから、そういうことも考えると、旧町村単位でなくくくり方というのは、地域別のまちづくりをどう書くかというところが少し難しいですが、あり得ると思います。どれがいいかというのは考え方によって違うので、やはり、合併前のことを考えるならば③のような気もするし、オール長岡でやるなら②かもしれないけれども、実は流域のようなものを考えて、①も少し考えたほうがいいのかもありませんかと思っています。</p>

副委員長	<p>例えば、昭和の合併で泣き別れになったけれども、平成の合併で一緒になった所というのが、実は長岡市内にたくさんあります。一番有名なのはこん平の千谷沢村で、あそこはもともと小国と越路に分かれたけれども、今は一緒になっています。そういう所は、実は長岡の雲出のところと、三島にもありますし、寺泊と与板の間にもありますし、山古志と太田地区もそうです。だから、そういう所はもともと同じコミュニティだったのに、昭和の合併のときにわざわざ分かれて、昭和 30 年代の半ばくらいまでに合併して、平成 17 年までの間に 40、50 年間泣き別れている。実際にはもともとルーツが同じだったわけで、考えていることは同じです。単純に、市町村単位でいいということでもないということも実は考えたほうがいいと思います。</p> <p>もう 1 つは、先ほど深才のことがありましたが、宮内も同じだと思いますが、昭和の合併の時に長岡になった所というのは、実は今だって長岡だと思っていない人はたくさんいます。というか、旧長岡の人が長岡だと思ってくれないところがたくさんあって、深才は今だって長岡だと思ってもらえないと思います。そういう意味で言うと、川の西側は大きく分けて、確実にコミュニティを持っているのは上川西、下川西があって、関原や宮本、大積、深才とあります。東側も、実は宮内は合併する前から町で、あとはみんなほぼ村で、北には浦瀬があり、南側に十日町があり、全部がもともとの旧町村単位である必要はない。けれども、旧長岡市と言ったときに、では旧長岡市 270 ㎏くらいをまとめて書くのかといたら、それはそれで違うかもしれないと思うと、よく考えないと、旧町村単位といったときに、寺泊は寺泊、和島は和島、では旧長岡市は旧長岡市で全部一緒に書いてしまっているのかというところは、それもよく考えなければいけないと思うのです。</p> <p>私は、話を蒸し返すだけで結論は申し上げられませんが、地域のことをわかってくると、だんだんそういうことがわかってくる。そもそも、長岡市は、長岡藩が持っていた所というのは半分以下しかなく、違う藩が持っていた所もたくさんあるので、江戸時代は国が違った所もたくさん持っています。そういうことを考えれば、本当はルーツということも考えていろいろやっていないといけないと思うところはあります。</p> <p>大きな理念として、長岡は、まず非常に多様性に富んだ魅力ある市だと思うので、それを大切にしなければいけません。その多様性の源は、やはり地域ごとの暮らしの個性であったり、特性であったり、文化の個性であったりしますから、そうしたものをいかに大切に磨いていくかということが 1 つです。そして、その多様性を、それぞれがよりつながり、より交流して行って、総合力を高めていくことが 2 つ目の大きな大切なことだと思います。したが</p>
------	--

	<p>って、それをいかに総合計画の中で、各施策として実現していくように書くかだと思うのです。</p> <p>そのときに、この旧市町村単位での地域全部の取り扱いをどうするかと考えたときに、多様性、個性を表現する上で旧市町村単位ということがどうしても外せないのであれば、旧市町村単位で書くしかない。</p> <p>②の書き方は、「各施策に地域の主要な取り組みを盛り込むことで」ということですが、この方法でうまくいくのでしょうか。政策ごとに分解して縦割りを書いて、それで果たして地域の個性、特性といったものを際立たせることができるのかという心配が1つ出てきます。</p> <p>もう一方で、旧市町村単位で書いたときに心配になってくるのは、つながりとか交流を太くするという方向で書こうとしたときに、逆に地域エゴだとか、うちはこれがないから、それがぜひ欲しいからということで、非効率が起こってしまうとか、融和の妨げになるとか、そういうふうになってしまうといけないと思うのです。</p> <p>そのため、②にしても③にしてもメリット・デメリットがそれぞれあって、最初に言いました多様性の魅力・個性を磨いて、それをよりつなげて交流して行って、総合力を発揮していくという方向で書くためには、どちらを取るのだということになるのかと思います。</p> <p>それともう1つは、それぞれの市民からすると、自分の住んでいる所は、いったい今後どうなっていくのかというのは、非常に関心の強いところだから、その声に応えていくことは総合計画としても必要なのだろうと思います。そのときに、地域という概念が旧市町村単位でしかなかなか表せないのか、それとも副委員長が言われたように、もう少し違う切り口というか、くくり方での地域ということが表現できるのか、そこはわかりませんから、スパッとはいいきれないのですが、今、皆さんのご意見をお聞きしながら私が考えたことは、以上です。</p> <p>委員長</p> <p>ありがとうございます。各委員のご意見をいただきましたので、事務局でしっかりとまとめていきたいと思っています。</p> <p>時間もありますので、続いて、次の議事に入りたいと思います。</p> <p>土地利用構想について、事務局から説明いたします。事務局、お願いします。</p> <p>政策企画課長</p> <p>(資料1の4に基づき説明)</p> <p>副委員長</p> <p>(資料1の4に基づき補足説明)</p>
--	--

委員長	<p>ありがとうございました。それでは、資料1の「4 土地利用構想について」、記載してある事務局案について、各委員よりご意見ございませんでしょうか。</p> <p>ないようですので、続いて「5 政策体系（政策の柱等）について」、事務局より説明をお願いします。</p>
政策企画課長	(資料1の5に基づき説明)
委員長	事務局が次回以降具体的に記述した資料を作成するにあたり、特に記述してほしい分野や留意点などがありましたら、積極的にご発言いただきたいと思えます。
委員	6の2番目に「男女共同参画社会の推進」を行うとあります。男女共同参画というのは、全ての施策の中に網掛けしていかないと、政策的にも施策の動かない部分がありますので、この文章だけではなく、内容も含めて記述していただきたいと思っています。
委員	<p>「5 シティプロモーション」ですが、情報発信だと、中心部から県外、全国、世界にという発信という形に捉えられやすいですが、今日の議論を聞いていて、各市町村でもわからない部分もたくさんあるので、発信することと周知しあうことの両輪が非常に大事だと思います。意外と外に発信して、地元に来たら地元の人が知らない、長岡はみんな知っていたのではないのですかと言われることがないように、内部的にもシティプロモーションをかけていく。今後に加えるものの中に「地域資源を活かした交流」でうたうこともいいかもしれませんが、「魅力の発信の周知やネットワーク」という記述があってもいいのではないのでしょうか。</p>
副委員長	<p>何を付け加えるということではないのですが、前回の計画、これは前期しろ、後期にしろ、もともと長岡市役所にあった部局を念頭において部会がつくられていました。</p> <p>総合計画は、本当は総花的で網羅的なことがいいか悪いかというと、いろいろ意見はありますが、やはり総合計画の中にきちんと書いておくことで事業は進むという面から、一応、長岡市がやろうと思っていることの全てが、どこかに何か書いてあるという仕組みがいると思うのです。そういったときに、ここに書くのではなくて構わないですが、少なくとも、課や室単位で、</p>

	<p>自分のところが当てはまるのはどれであるというのを、一度、庁内会議で照会をかけて、自分のところの課が担当していることはどこにも当てはまるものがないということのないようにだけは、チェックをしておいたほうがいいと思いました。ここに入るのですよとなっているのかもしれないですが、そういったときに、実は、ここで書いてある「施策の方向に加えるもの」という形で、新しい柱としてきちんと加えたほうがいいものも出てくる可能性があると思うので、それは、ここにおられる委員の方が、みんな自分のすごく興味を持っているところ、例えば、今、男女共同参画社会のことを言われましたが、私たちはよくわかりませんから、それについてはあまりコメントできないわけです。そういう意味でいうと、やはり自分の関心のあるところはきちんとチェックするとしても、そうでないところのことも含めて、庁内で一度、自分の課がどれに当てはまるというのを全部チェックしてもらいなことをやっていただければと思います。</p>
委員	<p>2点あります。「2 産業活性化」のところで、うたい文句が「競争力の高い産業と」とありますが、施策の方向では「中心市街地や身近なまちなかの活性化などによる競争力の強化」とあります。この「競争力」が何を意味しているのかあまりよくわかりません。どこに住むかということを選んでときの競争力なのだろうと類推しますが、何を競争しているのかということをし少し整理するといいいのではないかと思います。</p> <p>もう1つは、「4 環境・都市機能」で、今までの総合計画は、新しい道路をつくりましょう、新しい施設を造りましょうという「整備」という言葉が基本的にこういう総合計画の中に並んでいましたが、やはり、21世紀になって2回目の総合計画なので、つくるばかり、整備するばかりというの也能がないというか、今までつくったストックを活用しながら、市民の生活を安全・安心に守っていくという考え方があってもよくて、そういう意味では、そろそろ、そういう方向性も若干緩めていく必要があると思います。「整備」という言葉を少しいい言葉に置き換えるという議論ができるといいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>私も言葉がよくわからないところで、1つ目は「シティプロモーション」の施策のところ。「長岡ブランドの確立」とありますが、これは具体的にどういったことを言うのでしょうか。1つ、長岡ブランドと言えるものとして、「NPO法人思いのほか」が、食と農業を絡めた長岡の食文化のブランドを発信しています。それを観光につなげ、産業として、地域の経済循環を生み出せればと、今、さまざまな活動をしています、具体的な長岡のブ</p>

	<p>ランドの確立とはどんなことなのだろうというのが1つ疑問にあります。</p> <p>また、2つ目として、「2 産業活性化」の施策の方向に加えるものとして「U・I ターン希望者への情報発信」とありますが、もう今の時代、情報発信では足りなく、交流自体が必要です。情報発信だけでは遅い時代なので、東京に実際に地域の者が行き、また、東京の人に地域に来てもらうという、交流も大きな目で見ながら、書き方を考えていただければと思います。</p>
委員	<p>「健康・安心」かもしれませんが、障害者の支援は、例えば、「障害者支援」だけです。このくりに「地域防犯・防災体制の強化」というのがありますので、ぜひ災害時の障害者支援というのを何かの形、言葉にしてもらいたいと思います。また、高齢者の交通手段確保もとても問題なので、そういうものも少し入れてもらいたいと思います。</p>
政策企画課長	<p>今、防犯・防災対策の強化というところで意見をいただきましたが、実は、4において、「災害に強い基盤の整備」という部分があり、事務局のほうで、こういった一例を挙げましたが、今後、庁内のしっかりした議論をやっていくと、6つのカテゴリーでくくっている中でも、少し足りない面が出てくるというところで、検討をしています。参考までに、今言われた意見もしっかりしていきますが、障害者の支援というテーマにおいて、例えば、災害の切り口でいったときに、3の中で整理していくのか、4の災害に強い基盤というところも含めた、「災害」というキーワードでくくっていくかも併せて、今後、整理していく中で、次回以降、提示したいと思っています。一部、そういうやりとりが出てくるということをご承知置きいただきたいと思ます。</p>
委員	<p>「4 環境・都市機能」に、「環境負荷の軽減」がありますが、プラス循環型社会の推進というものをに入れてほしいと思います。長岡市の場合、生ごみを集めてバイオガス発電を既にやっていますが、自治体の処理能力としてはトップクラスだと伺っています。そういったことも含め、「循環型社会を推進」を入れてほしいと思いました。</p> <p>それから、3に「交通安全対策」とありますが、このカテゴリーで「安心」というのが3にあって、4の下に行には「安全」と、総合戦略は一緒なのですが、安心と安全がここで分かれてしまっているの、交通安全という文言だけを取ると4に入るのかなと思ってみたり、ニュアンスとしては3にももちろん関わってくるのですけれども、言葉の精査をこれから図ることなので、そのあたりも安全だと4なのかとか思ったりしました。</p>

委員	<p>具体的な例も文言もないので、やはりそれを見た上で、もう一度、タイトルとして適切なのは何か、あるいはここに入れるのではなく、別のところと一緒にしたほうがいいのかという議論はもちろんされるのでしょうか。多分、それがないとみんな自分の思いの丈を述べるだけになってしまうので、ぜひ、その機会を小出しでもいいので、できるだけ早めにしてほしいと思います。</p>
委員	<p>6ですが、「多文化共生の推進」が入ると、普通、在住外国人支援という視点になるのですが、その上の「外国人に対する支援」とは、どういう外国人のシチュエーションを想定しているのか、説明していただけますか。</p>
政策企画課長	<p>まだ、庁内で深い議論をしていませんが、ここで例示した意図は、最初に言われた多文化共生の推進は長岡にお住まいの方を対象としています。1つ上の外国人に対する支援は、これから交流が進んでいく中で、例えば、観光やビジネスなどで多くの方が来られています、そういうところも含めた中での考え方として、あえて2行で出させていただきました。</p>
委員	<p>産業活性化の部分ですが、「中心市街地や身近なまちなかの活性化などによる競争力の強化」という言葉で、聞いたときはいいように見えるのですが、他の項目に比べて抽象的な感じがします。何を求めていくのかを、もう少し具体的にするとよい気がします。</p> <p>それから、「農業の担い手確保」とありますが、このいろいろな産業の項目を見ている中で、「農業の担い手確保」は、少し浮いてみえます。例えば6次産業化の推進など、何か言い方を工夫したらいいのではないかと感じました。</p>
委員	<p>今の件で、私も農業関係で一応言うと、「魅力ある農業の推進」は、やはり魅力がないと後継者という問題もあるので、そのほうがいいのかと思います。</p>
委員	<p>「3 健康・安心」ですが、施策の方向で「産前産後・子育ての支援」とありますが、「産前産後」という言葉より、「妊娠・出産・子育ての支援」のほうが、妊娠から子どもを育てるところまでの長い距離を感じます。産前産後というと、生まれる直前から生まれた後すぐというような感覚がしなくもないので、言葉のあやでしょうけれども、そのあたりの表現はそうしたほうがいいのかと思います。</p>

委員	<p>今、女性の話が出たので、例えば育児環境の充実や、女性の社会進出、働きやすい職場環境の創出など、そういうものも何か入れてもらいたい気がします。</p>
委員	<p>先ほど、農業の担い手とか魅力というのがありましたが、山も海もありますので、そういうものも含めた中の産業を考えていただけるとありがたいと思います。</p>
委員	<p>長岡で考えたときに、やはり米が一番の環境の中で、それによって酒造会社が出来たり、弁当屋さんが出来たりして、そのあたりの連携をうまくやっていけば、長岡全体として、米の魅力が出てくるのではないかと思います。そのために、やはり企業側としても、地域に還元してもらいたいと思います。</p> <p>また、やはり長岡の地域性を考えたときに、山があつたり、先ほど言った寺泊に海があつたり、そういった自然環境をうまく活用して、長岡は長岡の米をうまく進めていけばいいと思います。</p> <p>その際に、県外から来た人たちが、ここに住んでいる人の感覚ではない、外から見てこれをやったらいいのではないかというアドバイスを、ぜひお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>施策の方向に加えるものの話で、4の「自然環境の保全」、「田園・里山環境の保全」で止まっていますが、「保全と活用」ということで、自然をどう活用するかということ、活用という言葉を加えて、考えていただけたらと思います。</p>
委員長	<p>それでは、発言も大体落ち着いたようなので、議事全体をとおして、これまでの各委員の発言や事務局からの説明について、各委員から何かありましたら、ご発言ください。</p> <p>ご発言がなければ、本日予定していた議事はこれで終了となります。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
政策企画課長補佐	<p>(第8回の開催日程について報告)</p> <p>本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>これもちまして、第7回総合計画策定委員会を終了いたします。</p>